



羊たちのつづやき

平成27年
8月号

発行：経済同志会シープクラブ

総会報告

新年度がスタート

増漬けを作るプランを立案。加えて、

7月例会総会は、7月27日

(月) 19時から「くっけん広場」

3階会議室にて38名が出席し開催

された。

はじめに牟田会長による年度初め

の挨拶があり、委員会報告などのあ

と総会へと進出した。総会は定数確

認後、海田副会長を議長に選出。海

田議長のもと平成26年度決算案が

承認。続いて、各委員会の委員長か

ら平成27年度事業計画案が発表さ

れた。

①ビューティーヘルス委員会（関戸

委員長）は、自家製味噌ならびに味

マークホテルでのクリスマス家族会、災害時における防災判断力の訓練などの計画が発表され、すべて承認された。

その後、平成27年度予算案の説明があり、活発な質疑応答のあと承認。

引き続き、山口専務から事務所移転に伴う会則変更や報奨金の評価方法の改訂などの説明があり承認された。

最後に、新しい事務局駐車場用の駐車証が配布され、新入会員・堤氏の紹介があり閉会した。

終了後の懇親会（会場／水月）では、中村委員長の巧みな進行で「メエー

メエーBOX」が活況。会員の皆さんも終始笑顔が溢れる懇親でした。

（法村輝也）

次回の例会は

9月28日（月） 19時スタート！

3人の侍 卓話例会

卓話者・角田会員 上田会員 法村

会員



事務局移転後、初の事務局例会開催です

例会終了後、引き続き事務局にてケータリングにて懇親会を行います※飲酒予定会員は各公共交通機関にて来局ください。

お勧めの映画

『白鯨』

8月28日BSジャパンで『白鯨』（1959）が放送されます。

海の仕事に憧れニューヘッド

：」などと言っても、多くの人は意味が分からないと思うんですけどね。

当分この問題は尾を引き、まだまだ収束はしないでしょうが、私の結論としては、（会報が配布される頃にどうなっているか分かりませんが）このまま時が流れ、そしてオリンピックの頃には人々の話題にもほぼ上がらなくなり、地味に、極めて地味に、このエンブレムが使われている。・・・ということになるのではないかと考えております。

フォードの港にやってきたイシメル（リチャード・ベースハート）は銆撃ちと知り合い捕鯨船で働くことになる。その船の船長エイハブ（グレゴリー・ペック）はかつて白鯨に片足を食いちぎられ、現在は鯨の骨を義足を使っており捕獲することが出来なかった白鯨への復讐に執念を燃やしている。イシメルを含む乗組員たちはその復讐劇に巻き込まれていく。乗組員の一人、スターバツクがコーヒーチェーンの名前に使われるなど、欧米では大変有名なハーマン・メルヴィル 原作の同名小説の3度目の映画化になります。

監督はジョン・ヒューストン。ハフフリー・ボガートの盟友でありハリウッドを代表する巨匠の一人ですがシルベスター・スタローンが主演した『勝利への脱出』（1980）や『アニー』（1982）など晩年の作品をリアルタイムで、『荒馬と女』（1961）をリバイバル上映で私は映画館で観ることが出来ました。クリント・イーストウッドが監督・主演した『ホワイトハンター・ブラックハート』（1990）のモデルとなった人で映画同様、エネルギッシュで破天荒な生き方を貫きいろいろなタイプの映画を撮っていました。

ですが『男の野望・執念と挫折に終わることの多いその結末』を好んで描いています。

エイハブを演じたグレゴリー・ペックは新聞記者（「ローマの休日」（1953）

や弁護士（「アラバマ物語」（1962）などの役柄が印象的なのでちよつと意外な感じがしてミスキヤストと言われることが多いですが私は頑張っていると思います。ヒューストンも自伝の中でペックの人間性、演技に賛辞の言葉を送っています。

また脚本をヒューストンと共同で『火星年代記』や『華氏451度』などで有名なSF作家レイ・ブラッドベリが担当しています。ブラッドベリにとってこの映画によるヒューストンとの出会い、仕事は印象的だったようで後にその思い出を幾つかの作品の中で描いています。

白鯨との格闘シーンなどは現在のSFXを駆使するともっと迫力ある映像を撮ることができるとしようが暗く長く難解な原作を『執念と挫折』

というヒューストンの世界に絞って描いており彼の最良の作品ではないかもしれませんが見ごたえのある魅力的な映画になっています。

（中村親一郎）

副会長挨拶



山領 進

最近ネットで炎上している五輪エンブレムについて一言。2ちゃんねるのアプローチなので軽く読み飛ばして下さい。そもそも、あの程度のパクリは我々の業界ではよくあることなんです、舞台が大きすぎるのが問題。

ロゴマークの形状も、アルファベットの頭文字をモチーフにした物で、古式ゆかしいというか、旧態依然的手法であり、もしかしたら制作者本人も、これが選ばれるとは思ってなかったんじゃないかなあと思います。よくあるんですよ、制作者が考えていた本命案が採用されず、「賑わせ案」が採用されてしまうこと。多分、デザイン選定委員会は、森喜朗さんを筆頭にややこしい顔をしたお偉いさんの集まりではないのかなあと推察します。

トで有象無象の「識者」の餌食になったんですね。何だか同情します。しかし、テレビで誰かが言ってたけど、今更ながら、インターネットという世界は恐ろしいですよ。普段はデザインの事なんか何の興味もない人間が、ひとたび不正（？）、他人の不幸（？）を見つけると、ありとあらゆることを調べて、これでもかと叩きはじめる。とどまるところを知らないですもんねえ。それにしても過去の作品まで、よく調べ上げるもんだなあと感じます。サントリーのトートバッグについては、とうとうパクリを認めてしまうところまで追い込まれ。私はアートディレクターだから

総会や例会に参加する機会が少なく申し訳なく思っています。国会議員として、平日は議員会館・国会・自民党本部・霞が関周辺・宏池会事務所などを忙しく走り回っています。現場にも極力足を運びます。土日は地元に戻り、皆さんに国政の報告をするようにしています。充実した日々ですが、時間ももう少しあれば良いなと何時も思っています。by 北村誠吾